

えひめの子どもたちへのメッセージ

～みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、確かな行動に表そう～



愛媛県教育委員会教育長 田所 竜二

県内すべての小中学校をオンラインでつなぐ「えひめいじめSTOP!」デー。以前は、小中学校の代表者による「子ども会議」等を開催していましたが、コロナ禍で一か所に集まるのが困難になったため、オンライン形式での開催に変更したところ、全国でも類を見ない愛媛県ならではの取組として、小学6年生と中学1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、事前に配信したミニ動画や演劇による問題提起、リアルタイムでのアンケートなどを通して、熱心な議論が行われました。その中で意見として出された、「自分自身を見つめること」や「友達の個性や考えの違いを認めること」は、ライブ授業でもお話をあった「人とよりよく関わる方法」に通じるものであり、児童生徒の皆さんがいじめ問題に真剣に向き合っている大変強く感じました。

「えひめいじめSTOP!」デーは、いじめ問題の解決に向けた一つのステップです。次のステップは、皆さんが、今後、確かな行動につなげていくことです。話し合いができたことを、日常の行動に表すためには、いじめ問題について当事者意識をもって考え、地域社会全体で人を尊重する精神の涵養や、いじめを見逃さない雰囲気醸成することが大切であると考えます。子どもたちの考えや意見を尊重しながら、豊かな感性を育み、見守り、支えていきたいと思います。

最後に、「えひめいじめSTOP!」デーの開催に当たり、ご理解とご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

愛媛県教育委員会
人権教育課
2024年(令和6年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞



小中学生 約23,000人が参加

みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために

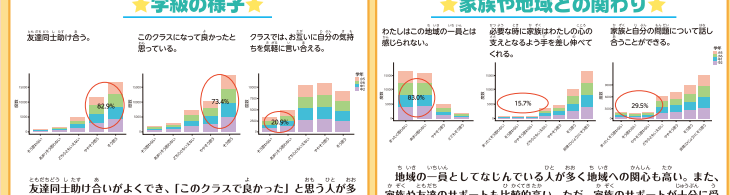
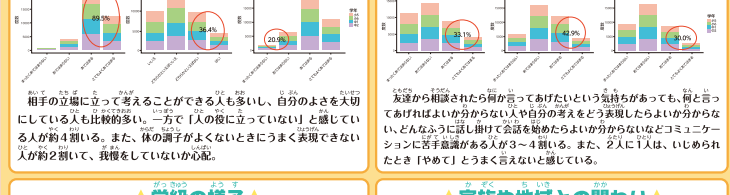
県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デー開催

令和5年11月16日(木)、宇和島市立南予文化会館をメイン会場に、県内すべての市町をオンラインでつなぐ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!」デーが開催されました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるためにはどうすればよいかについて話し合い、考えを深めました。

小5～中2のみんなに聞いてみた!

自分のこと・友達のこと・人とつながること

コロナ禍で遊びや学習に様々な制限があり、人と関わりが極端に少なくなりました。寂しい思いを経験した人も多かったことでしょう。そこで、今、小中学生のみんなは、周りの人との関わりについてどう感じているのか、それが心や体の健康とどうつながっているのかについて調べてみました(令和5年6～7月、県内の公立小中学生約44,000人を対象にアンケートを実施しました)。



ライブ授業前

6年生、ハイ!

授業中、急に明日の全校集会の司会進行を決めることに…みんなが嫌がる中、勇気を出して手を挙げたきょうか。最初は、みんなきょうかを否定するが、きょうかの頑張る姿にみんなの心が動かされていく…

リモート校

- 新居浜市立中萩小学校
- 上島町立岩城中学校
- 伊予市立北山崎小学校
- 松山市立余土中学校

サテライト校 408校

今年もライブ授業の前後にミニ動画を見て、ご自身の生活を見直したり、クラスで話し合ったりしたよ。

相談窓口

いじめ相談ダイヤル24 SNS相談ほっとえひめ 中高生専用

ライブ授業後

みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと

スペシャルゲスト あばれる君

小中学生の真剣な話し合いや、熱のこもった演劇を振り返りながら、「悩んでいるときには、友達に話すことで楽になることもある。気軽に話せる関係性をつくることが大切」と、笑顔を交えて話し合いを盛り上げた。また、日頃の友人とのよりよい関係づくりについては、「自分に厳しくしすぎないといひ。そう考えることで自分は楽になった」と、自らの経験を交えて、子どもたちにエールを送りました。

ライブ授業後半

「みんなと違うな」と感じることに ついて話し合ったこと

「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」

- みんなでもできること
- 一人ひとりでできること

ライブ授業中に わだしのホンネ

「みんなと違うな」と感じるどころ

- すく泣いてしまうところ
- 運動苦手なところ
- 人に話しかけるのが苦手なこと
- 大人数でいる方が少し寂しいより寂しいこと
- スマートフォンを持っていないこと
- ワイワイしている空気に入っていけないこと
- 顔がコンプレックス
- 周りにお気にしすぎること
- 持ち物の確認を何度もしてしまうところ
- 無理して受けていることが多いところ
- 人の涙にはあまり感じない
- 言いたくない、答えない

先生方から

「えひめSTOP!」デー後のみんなの様子について

- 子どもたちは考えたことを伝える力もよくなりました。
- 人間関係について真剣に話し合っている姿勢がとて素晴らしい。
- この授業をきっかけにもっと考える人になってほしい。
- いじめを自覚したら絶対に見えぬ力を見せ、行動する勇気をもつこと。
- いじめを自覚したら絶対に見えぬ力を見せ、行動する勇気をもつこと。

令和5年度 人権ポスター特選作品

人権尊重の意識を高めるためのポスター展

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校等から計45,135点の作品が寄せられ、審査の結果、5点が特選作品として選ばれました。

愛媛大学教育学部の学生の皆さんから

会場にいる人だけでなく、モニターの向こうにいる小中学生を見て一つのテーマについて考えている様子も印象的でした。「みんな安心して過ごすことのできる学級・学校」は、どの学校でも目指していきたいものだと思います。そのために、今回のライブ授業で出た意見一つ一つに取り組みことができれば、それは素晴らしいことだと思います。

ライブ授業後アンケート

「えひめSTOP!」デー後のアンケートに、たくさんの回答・意見が届けられました。

ライブ授業のあと、どのようなことに 気を付けて生活していますか。 ※複数回答

話をよく聞くこと	10,839
話をよく聞くこと	11,243
お互いを大切にすること	12,190
お話を認めること	10,955
失敗や苦しみは仕方ないこと	9,685
その他	

「心を通わせて 個性を認め合おう」

八幡浜市立立戸小学校 6年 吉川 陸 さん

八幡浜市立立戸小学校 1年 木原 涼帆 さん

「人生 自分で」

愛媛県立今治高等学校 1年 木原 涼帆 さん